

# 福津市新設小学校基本計画

令和5年2月

福津市教育委員会

この計画書は、令和4年5月に福津市教育委員会が公表した『新設小学校及び新設中学校基本計画』の内容から、新設小学校に関する部分のみを抜粋し再構成したものです。

# I 新設校の基本計画

## 1. 児童生徒数の推計

### 1.1 新設小学校

#### (1) 対象校区

新設小学校の校区は、現福間小学校区における西福間5区、現津屋崎小学校区における宮司2区、宮司3区とする。

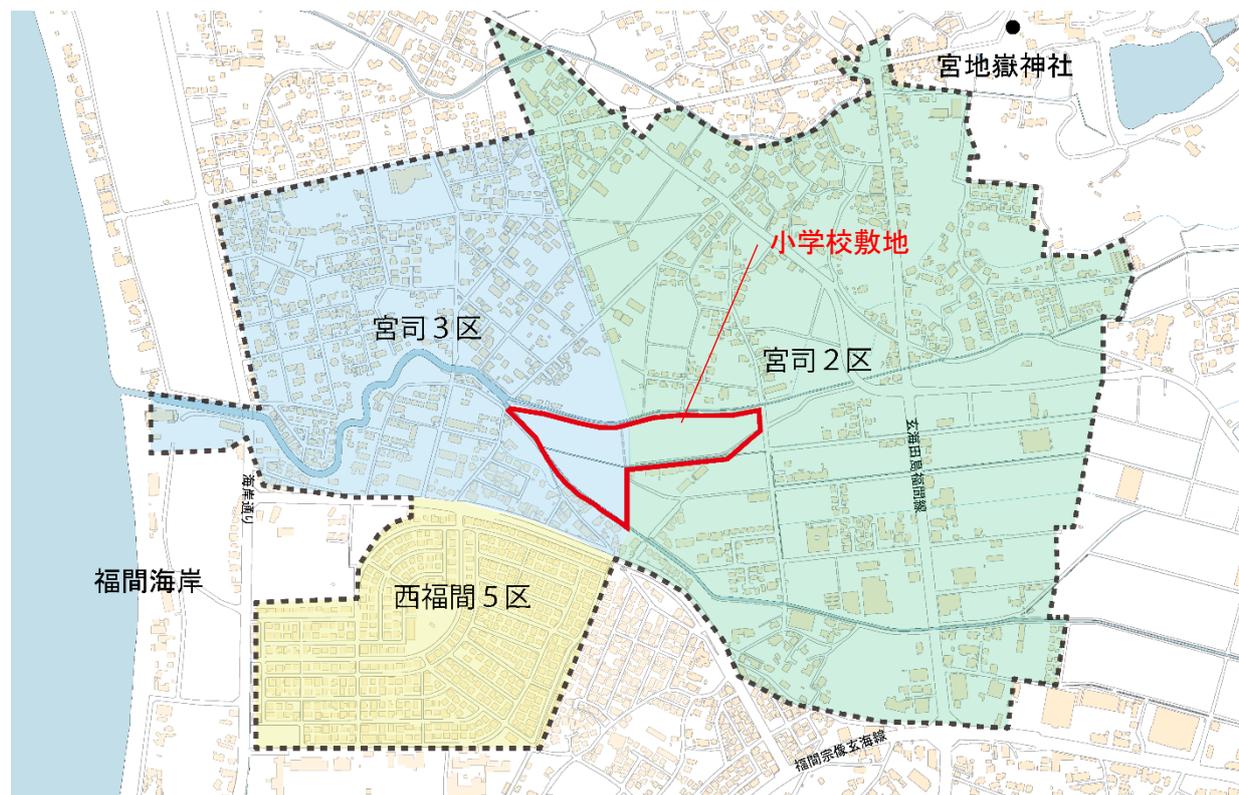


図 1-1-1 : 新設小学校校区

## (2) 児童数の推計

対象校区の児童数（特別支援学級児童を含む。）について、対象校区における未就学児童数や人口流入数などを考慮し新設小学校の児童数を推計する。

図 1-1-2 は、令和 9 年度から令和 28 年度の新設小学校の児童数の推計である。

開校 2 年目の令和 10 年度にピークを迎え、その後急速に児童数が減少することが見込まれる。

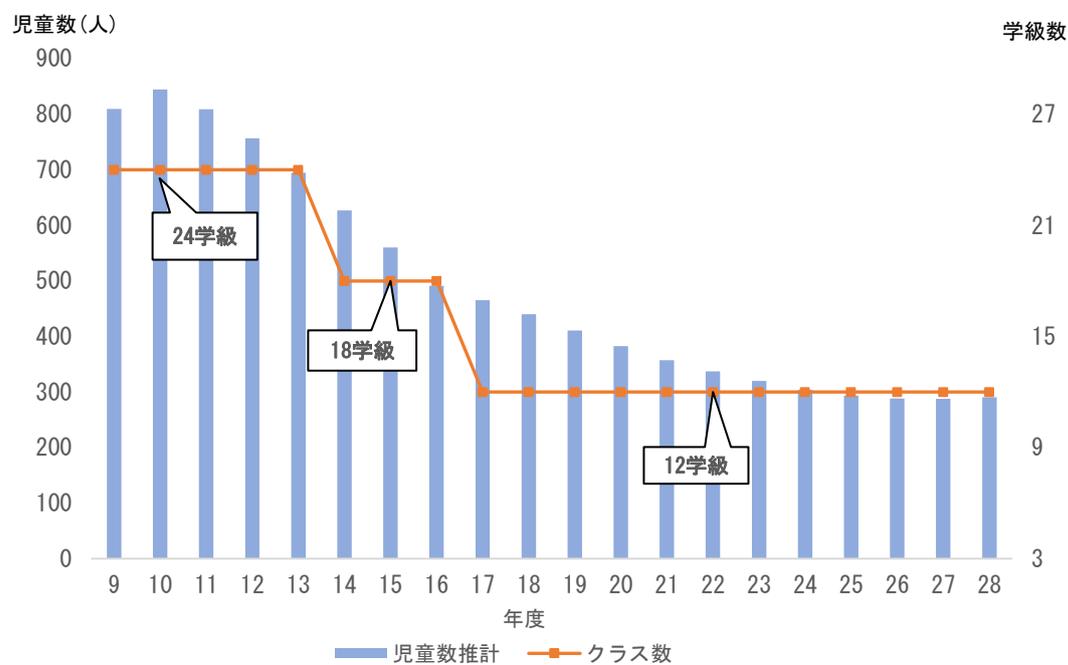


図 1-1-2 : 新設小学校児童数推計値と学級数

## 2. 配置・平面計画

### 2.1 新設小学校

#### (1) 建設予定地位置図

新設小学校の建設予定地は、現津屋崎小学校区の南端で、新設小学校の校区の中心に位置する。建設予定地を含む宮司地区は、宅地化が可能な農地が多く残された地域で、今後も人口の増加が見込まれる地域である。

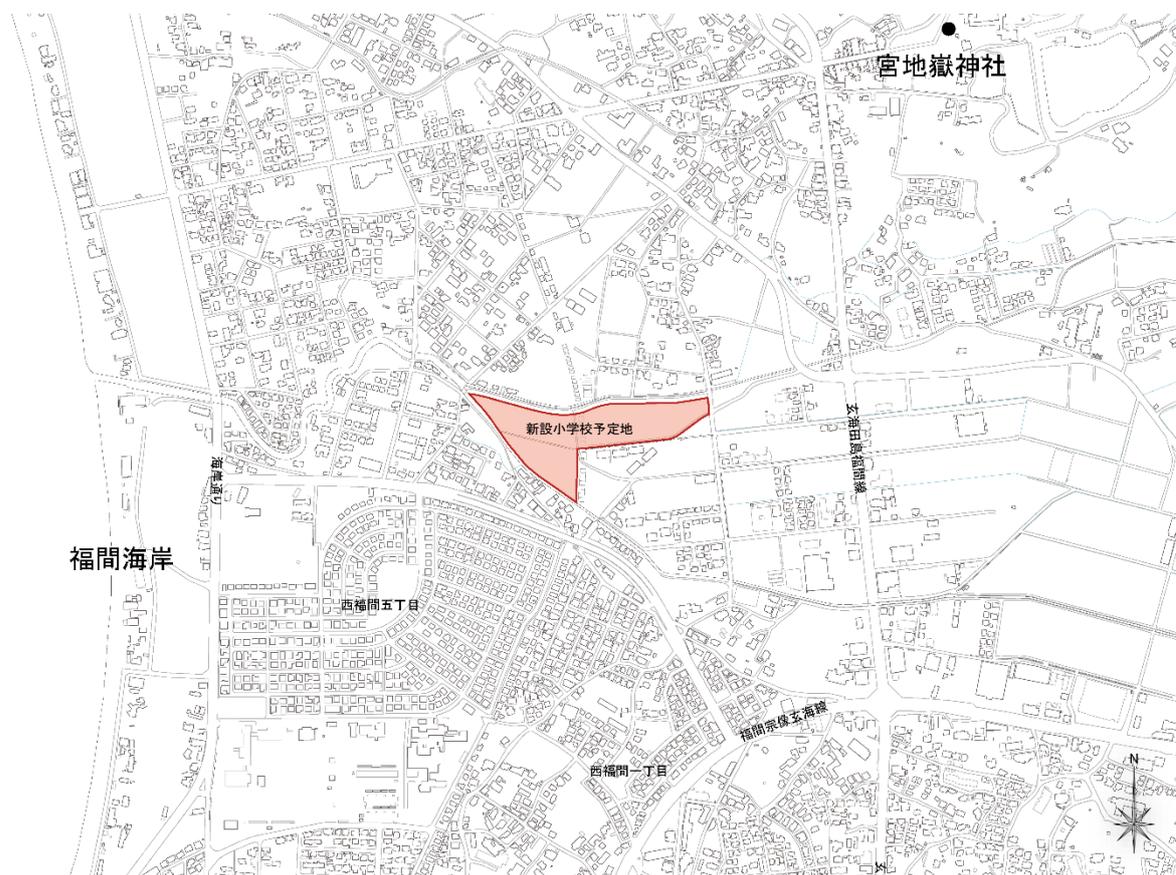


図 2-1-1 : 新設小学校建設予定地位置図

(2) 建設予定地周辺環境

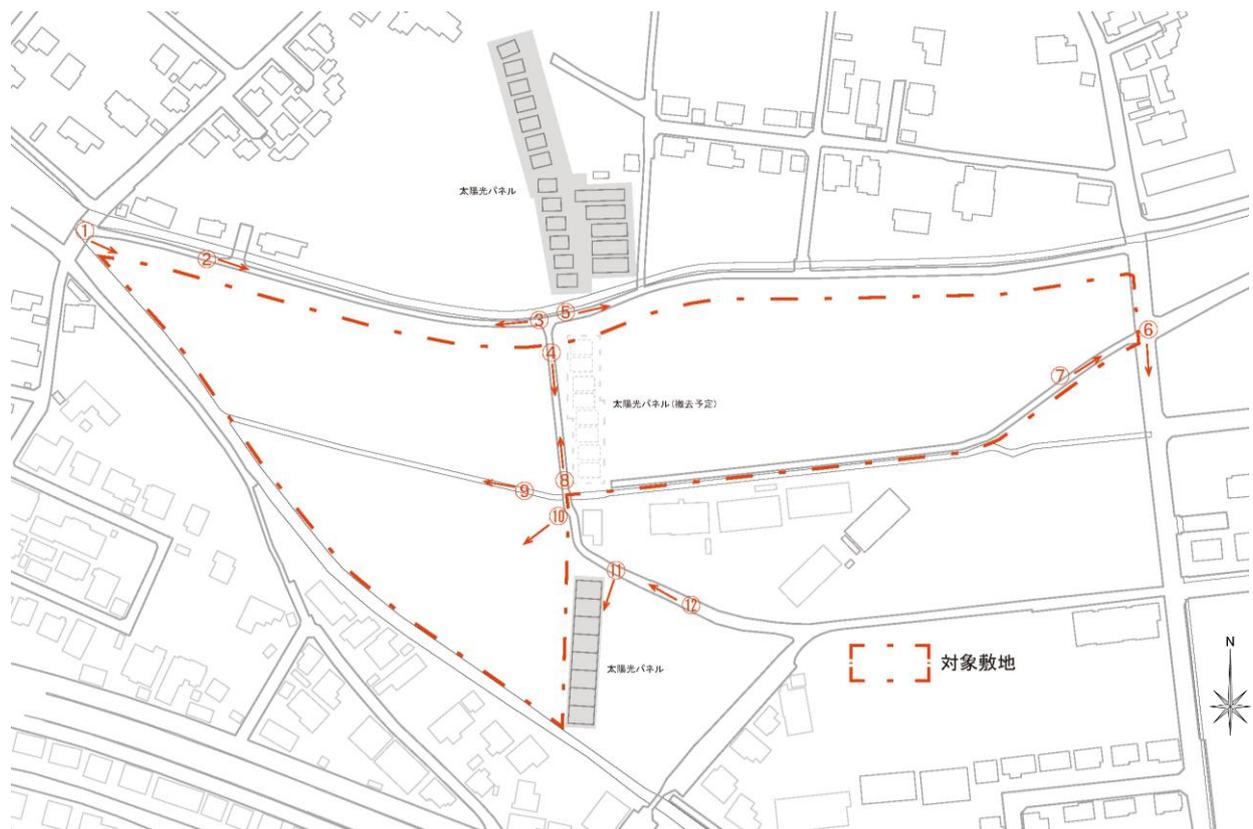


図 2-1-2 : 新設小学校建設予定地周辺図



①敷地西側道路から敷地を望む



②敷地西側から北側道路を望む



③敷地東側から北側道路を望む



④敷地北側から敷地内道路を望む



⑤敷地西側から北側道路を望む



⑥敷地東側道路



⑦敷地南側進入路



⑧敷地南側から北側道路を望む



⑨敷地東側から敷地内水路を望む



⑩敷地東側から南側住宅地を望む



⑪東側隣地の太陽光パネル



⑫敷地南側道路

## (3) 敷地条件等

敷地の概要は以下の表のとおりである。

表 2-1-3 : 新設小学校建設予定地概要

項目	内容	
前面道路	北	市道拡幅整備予定(現況:市道 宮司 27 号線 2.3m)
	南	—
	東	市道 古川・下戸井手線 8.0m
	西	市道 古川・松原添線 6.5m
用途地域	西：第 1 種住居地域	東：第 1 種低層住居専用地域
敷地面積	合計 約 28,500 m <sup>2</sup> (北側市道予定地を含む。)	
	約 15,200 m <sup>2</sup>	約 13,300 m <sup>2</sup>
防火指定	建築基準法第 22 条指定地域	
容積率	200%	60%
容積率(加重平均)	約 135%	
建ぺい率	60%	40%
建ぺい率(加重平均)	約 51%	
高度地区・高さ制限	福津市津屋崎都市計画高度地区 12m(同法運用基準による学校施設 の除外規定あり)	建築基準法第 55 条 高さ制限 10m
道路斜線	適用距離：20m 勾配 1.25	適用距離：20m 勾配 1.25
隣地斜線	立上り：20m + 勾配 1.25	—
北側斜線	—	立上り：5m + 勾配 1.25
日影規制	範囲 5m：5.0h 範囲 10m：3.0h 測定水平面：4.0m	範囲 5m：3.0h 範囲 10m：2.0h 測定水平面：1.5m

※上記は参考とし、正確な敷地面積等の情報については、令和 4 年度実施予定の用地測量後に確定するものとする。

## (4) 新設校の規模設定

学級数を表 2-1-4 と表 2-1-5 の 2 通りで想定し、それに伴い表 2-1-6 と表 2-1-7 で公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目の小学校基準により校舎及び屋内運動場の必要面積を算定する。

表 2-1-4 : 新設小学校(24 クラス)の学級数

小学校 6 年	24 学級	合計 24 学級
特別支援学級		10 学級

表 2-1-5 : 新設小学校(18 クラス)の学級数

小学校 6 年	18 学級	合計 18 学級
特別支援学級		10 学級

表 2-1-6 : 新設小学校(24 クラス)の施設規模

校舎床面積	約 8,552 m <sup>2</sup>
屋内運動場床面積	約 1,215 m <sup>2</sup>
学級数に応ずる校舎面積：5,000+173×(24-18 学級) = 6,038 m <sup>2</sup> …① 特別支援学級の設置による加算：168×10 学級 = 1,680 m <sup>2</sup> …② 多目的室を設ける場合の加算：(①+②) × 0.108 = 834 m <sup>2</sup> …③ <u>校舎の面積：①+②+③=8,552 m<sup>2</sup></u> <u>屋内運動場 (温暖地、16 学級以上の場合)：1,215 m<sup>2</sup></u> ▶ 多目的教室及び少人数授業教室加算 10.8% ▶ プールは設けない。	

表 2-1-7 : 新設小学校(18 クラス)の施設規模

校舎床面積	約 7,401 m <sup>2</sup>
屋内運動場床面積	約 1,215 m <sup>2</sup>
学級数に応ずる校舎面積：5,000+173×(18-18 学級) = 5,000 m <sup>2</sup> …① 特別支援学級の設置による加算：168×10 学級 = 1,680 m <sup>2</sup> …② 多目的室を設ける場合の加算：(①+②) × 0.108 = 721 m <sup>2</sup> …③ <u>校舎の面積：①+②+③=7,401 m<sup>2</sup></u> <u>屋内運動場 (温暖地、16 学級以上の場合)：1,215 m<sup>2</sup></u> ▶ 多目的教室及び少人数授業教室加算 10.8% ▶ プールは設けない。	

## (5) 新設校の規模設定

施設の主要諸室の室数及び構成を示す。

表 2-1-8(1)：新設小学校施設概要

※普通教室 1 教室 (74 m<sup>2</sup>) = 1 コマとする。

校舎					
諸室		室の規模 (コマ数)	室数	合計面積 (m <sup>2</sup> )	
教室	普通教室	(24クラス)	1	24	1,776
		(18クラス)	1	18	1,332
	特別支援教室		0.5	10	370
	多目的室		1	6	444
特別教室	理科室		1.5	2	222
	理科準備室		0.5	2	74
	音楽室		1.5	1	111
	音楽準備室		1	1	74
	図工室		1.5	1	111
	図工準備室		0.5	1	37
	家庭科室		1.5	1	111
	家庭科準備室		0.5	1	37
	外国語教室		1	1	74
	図書室		2	1	148
管理諸室	校長室・応接室		0.5	1	37
	事務室		0.5	1	37
	職員室		3	1	222
	保健室		1	1	74
	教育相談室		0.5	1	37
	会議室（大）		1	1	74
	会議室（小）		0.5	1	37
	その他 (放送室、職員更衣室、教材室、教材開発室兼倉庫、印刷室、児童会室等)		適宜	適宜	適宜
給食	給食受入れ室		1	1	74
	配膳室		0.35	3	78
共用部	PTA室		0.7	1	52
	トイレ(児童用男女別)		1	3	222
	その他 (廊下、階段、EV、トイレ(多目的含む)等)		適宜	適宜	適宜

表 2-1-8(2) : 新設小学校施設概要

屋内運動場			
諸室	室の規模 (コマ数)	室数	合計面積 (㎡)
アリーナ+ステージ	13.8	1	1,021
器具室	0.5	1	37
児童更衣室	0.25	2	37
更衣室	0.25	2	37
トイレ	0.25	2	37

屋外施設			
諸室	室の規模 (コマ数)	室数	合計面積 (㎡)
体育倉庫	0.65	1	48
屋外トイレ	0.25	2	37

**(6) 新設校の配置比較**

敷地概要、施設概要を踏まえ、土地利用計画及び配置ゾーニングの比較検討を行った。

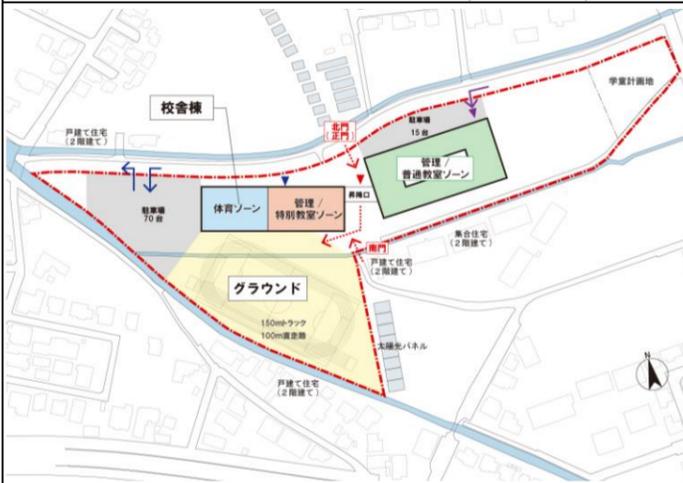
結果は、図表 2-1-9 のとおりである。

比較検討の結果、総合的に B 案及び D 案の評価が高く適正であると判断できる。

図表 2-1-9(1)：配置比較検討(24クラス規模)

配置計画		A案(校舎西側・グラウンド東側案)	B案(校舎北西側・グラウンド東側案)
教育環境	普通教室の採光	○普通教室が南・東に面しているため、採光を確保できる。	○普通教室が南に面しているため、採光を確保できる。
	普通教室からの眺望	○南側戸建て住宅向きであるが、十分離隔が取れており良い。	△体育館及び駐車場向きであるため、眺望としては他案に劣る。
	校舎～グラウンドの動線	○昇降口からグラウンドが近く、動線が短いため良い。	○昇降口からグラウンドが近く、動線が短いため良い。
	グラウンドの形状	○整形かつグラウンド面積が最も大きく確保できる。(約9,800㎡)	○整形かつグラウンド面積が最も大きく確保できる。(約9,800㎡)
	グラウンドの日影	○建物による日影の影響がないため良い。	○建物による日影の影響がないため良い。
外部環境	正門の位置	○正門から昇降口が比較的近く、動線が短いため良い。	○正門から昇降口が比較的近く、動線が短いため良い。
	駐車場	○体育ゾーンに近接しており、社会体育の利用がしやすい。駐車台数は80台程度確保可能。	○体育ゾーンに近接しており、社会体育の利用がしやすい。駐車台数は90台程度確保可能。
管理運営 ・ 安全性 ・ 防災	歩車分離	○北側市道整備に歩道+横断歩道を整備することで歩車分離が可能。	○北側市道整備に歩道+横断歩道を整備することで歩車分離が可能。
	見通し	○管理ゾーンから正門とグラウンドの両方を見通すことが可能となり、管理・防犯上有効である。	○管理ゾーンから正門とグラウンドの両方を見通すことが可能となり、管理・防犯上有効である。
	社会体育利用時の管理しやすさ	○体育ゾーンと学校ゾーンが明確に分けられており、セキュリティ区画がしやすい。	○体育ゾーンと学校ゾーンが明確に分けられており、セキュリティ区画がしやすい。
周辺環境への影響	近隣住宅への影響	△校舎南側及び東側戸建て住宅への圧迫感がある。	○他案と比較して近隣への離隔が取れており、圧迫感が少ない。
	太陽光パネルへの影響	○日影の影響は少ないため良い。	○日影の影響は少ないため良い。

図表 2-1-9(2)：配置比較検討(24クラス規模)

配置計画		C案(校舎北側・グラウンド南側案)	D案(校舎西側・グラウンド東側案)
		<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><span style="border: 1px dashed red; display: inline-block; width: 10px; height: 10px; margin-right: 5px;"></span> 新設中敷地</li> <li><span style="color: red;">▲</span> 児童出入口</li> <li><span style="color: blue;">▲</span> 職員(来客・地域)出入口</li> <li><span style="color: purple;">▲</span> 給食搬入口</li> <li><span style="color: red;">⋯⋯</span> 児童動線</li> <li><span style="color: blue;">→</span> 車両動線</li> <li><span style="color: purple;">→</span> 給食車両動線</li> </ul>	
教育環境	普通教室の採光	○普通教室が南に面しているため、採光を確保できる。	○普通教室が南に面しているため、採光を確保できる。
	普通教室からの眺望	△南側校舎が集合住宅との離隔が少ないため、眺望としては他案に劣る。	○南側戸建て住宅向きであるが、十分離隔が取れており良い。
	校舎～グラウンドの動線	△昇降口からグラウンドが近いが、渡り廊下を兼ねるため上下足の履き替えがしづらい。	○昇降口からグラウンドが近く、動線が短いため良い。
	グラウンドの形状	△不整形な形状で、かつ面積も小さい。(約7,500㎡) また、学童保育所からのグラウンド利用がしづらい。	○整形かつグラウンド面積を大きく確保できる。(約9,600㎡)
	グラウンドの日影	○建物による日影の影響がないため良い。	○建物による日影の影響がないため良い。
外部環境	正門の位置	○正門から昇降口が比較的近く、動線が短いため良い。	○正門から昇降口が比較的近く、動線が短いため良い。
	駐車場	○体育ゾーンに近接しており、社会体育の利用がしやすい。 駐車台数は85台程度確保可能。	○体育ゾーンに近接しており、社会体育の利用がしやすい。 駐車台数は75台程度確保可能。
管理運営 ・ 安全性 ・ 防災	歩車分離	○北側市道整備に歩道+横断歩道を整備することで歩車分離が可能。	○北側市道整備に歩道+横断歩道を整備することで歩車分離が可能。
	見通し	○管理ゾーンから正門とグラウンドの両方を見通すことが可能となり、管理・防犯上有効である。	○管理ゾーンから正門とグラウンドの両方を見通すことが可能となり、管理・防犯上有効である。
	社会体育利用時の管理しやすさ	○体育ゾーンと学校ゾーンが明確に分けられており、セキュリティ区画がしやすい。	○体育ゾーンと学校ゾーンが明確に分けられており、セキュリティ区画がしやすい。
周辺環境への影響	近隣住宅への影響	△校舎南側の集合住宅への圧迫感がある。	○他案と比較して近隣への離隔が取れており、圧迫感が少ない。
	太陽光パネルへの影響	○日影の影響は少ないため良い。	○日影の影響は少ないため良い。

## (7) 仮設校舎の配置検討

本章 I. 児童生徒数の推計において、新設小学校児童数のピーク時(R9～R13)の5年間のピークカットのために、仮設校舎6クラス(各階3クラス2階建)を本敷地内にて配置可能か検討する。

図 2-1-10 は前(6)配置比較検討において行ったB案をベースとして仮設校舎を18クラス規模の新校舎東側(グラウンド側)に配置した案である。同様に、図 2-1-11 はD案をベースにて仮設校舎を普通教室棟東側に配置した案である。

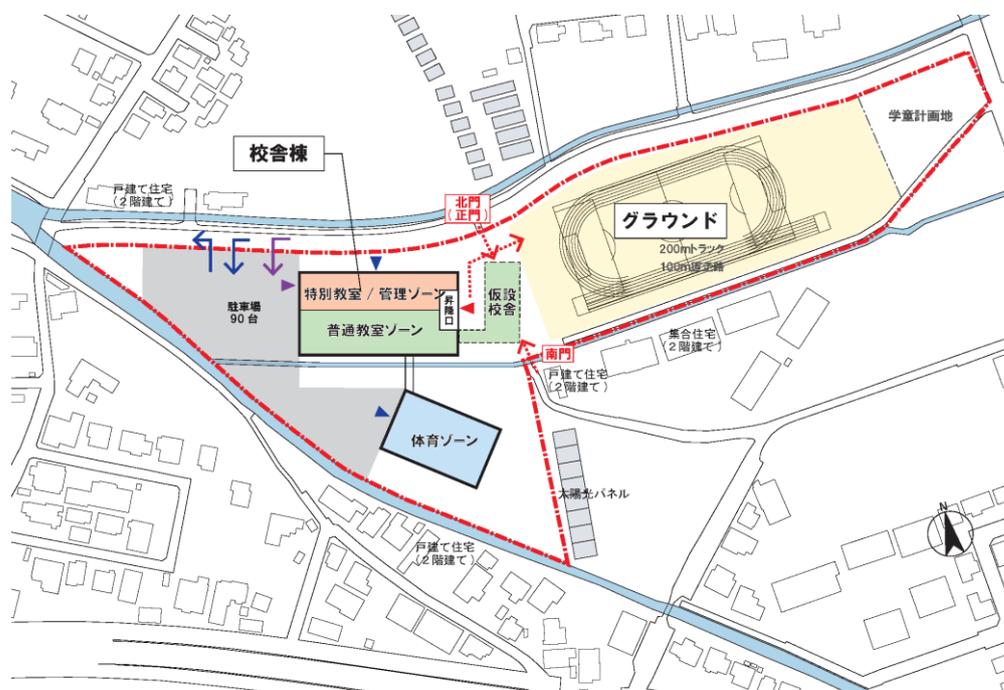


図 2-1-10 : 配置検討 B-2 (18クラス規模+仮設校舎)

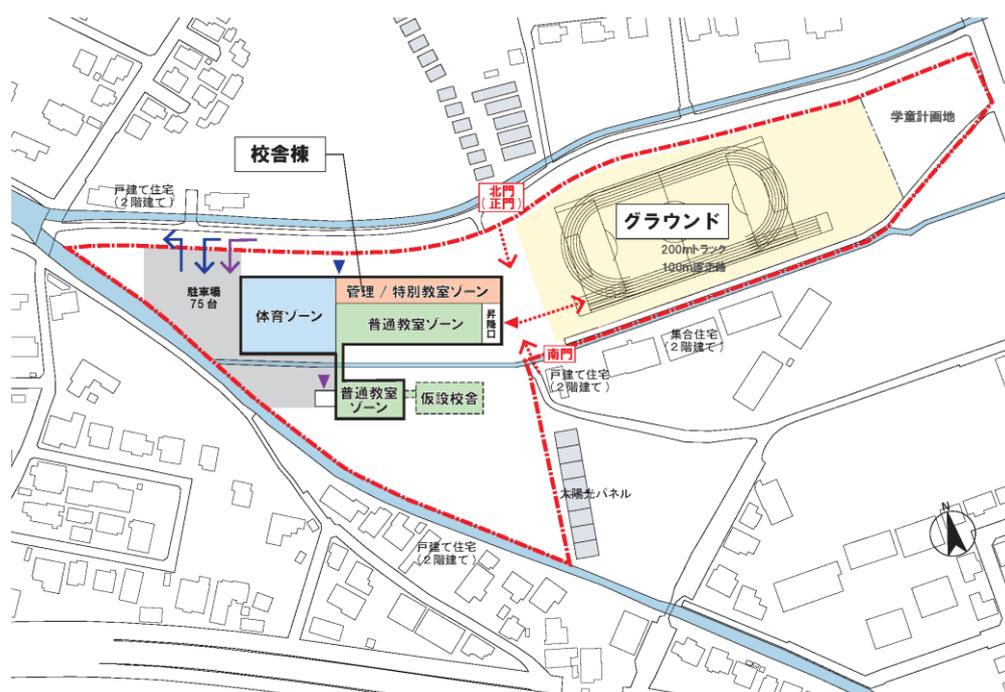


図 2-1-11 : 配置検討 D-2 (18クラス規模+仮設校舎)

## 3. 概算工事費

表 3-1：新設小学校(24 クラスの場合) 概算事業費

本敷地(小学校)			
工事費	①校舎建設費	千円	千円
	②屋内運動場建設費	千円	
	③グラウンド外構整備費	千円	
設計費			千円
小計			千円

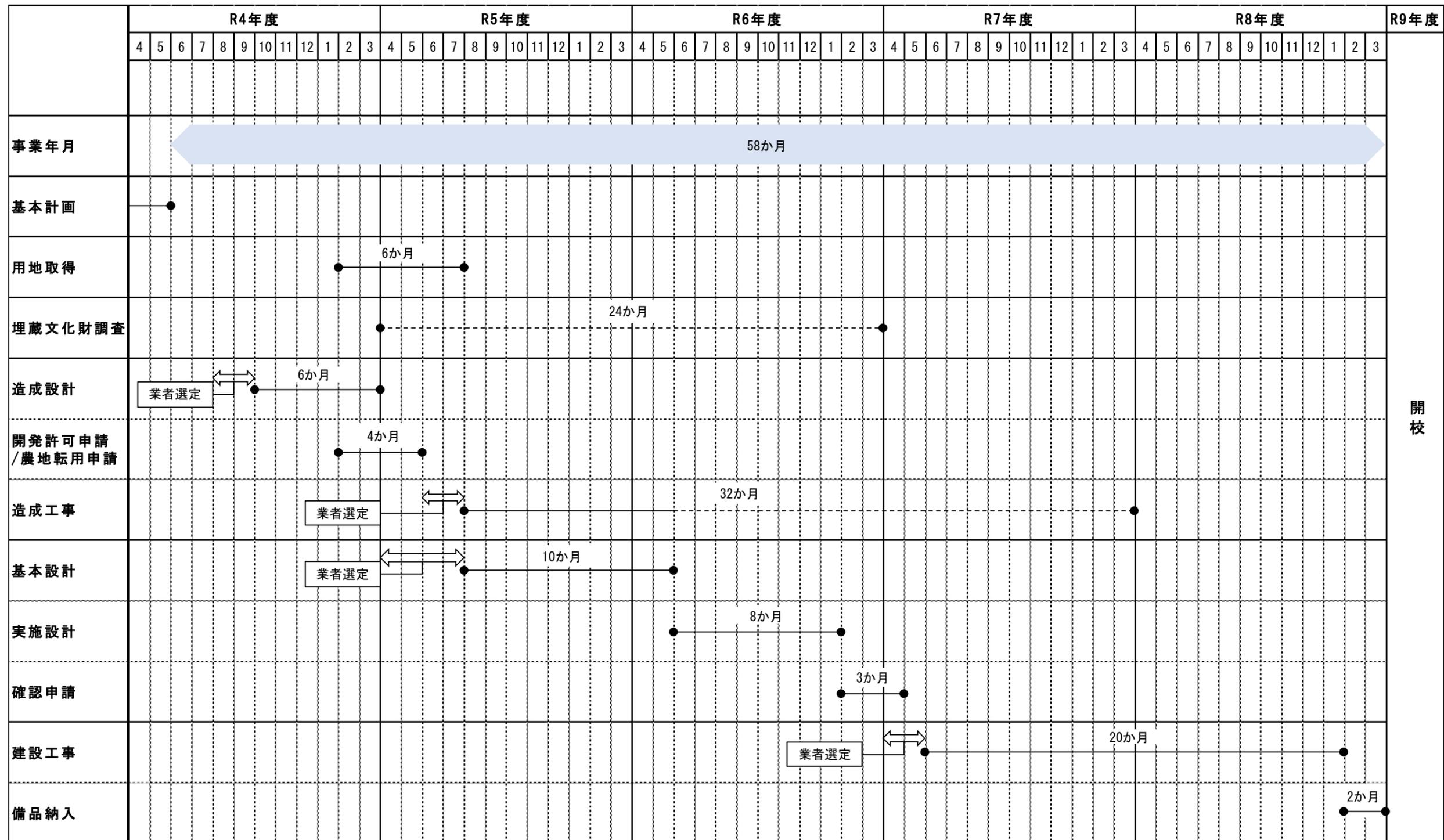
表 3-2：新設小学校(18 クラスの場合) 概算事業費

本敷地(小学校)			
工事費	①校舎建設費	千円	千円
	②屋内運動場建設費	千円	
	③グラウンド外構整備費	千円	
	④仮設校舎建設費	千円	
設計費			千円
小計			千円

**概算事業費は非公開**

4. 事業スケジュール

表 4-1：新設校の事業スケジュール



開校